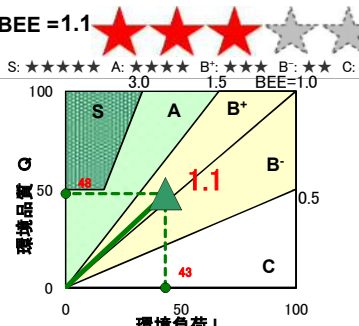


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(株)翔栄通商 岩倉センター	階数	地上2階		
建設地	愛知県岩倉市北島町エヒスキ18番	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	28人		
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年3月27日		
敷地面積	3,704 m <sup>2</sup>	作成者	瀬古好美		
建築面積	1,893 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月27日		
延床面積	2,328 m <sup>2</sup>	確認者	瀬古好美		

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★



環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

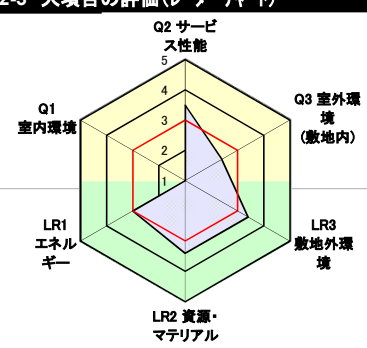
②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

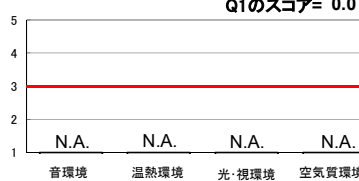


### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

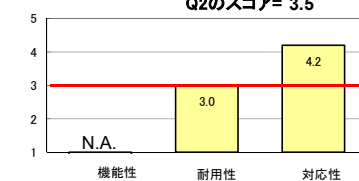
#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0



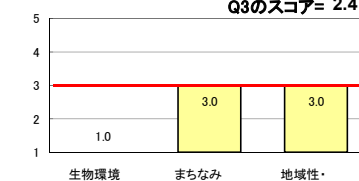
#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5



#### Q3 室外環境 (敷地内)

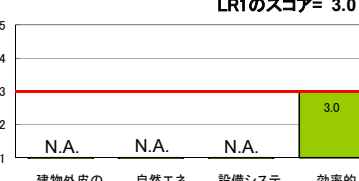
Q3のスコア = 2.4



**LR のスコア = 3.2**

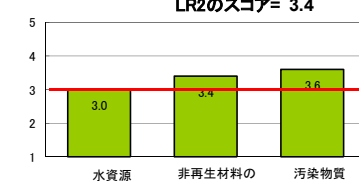
#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0



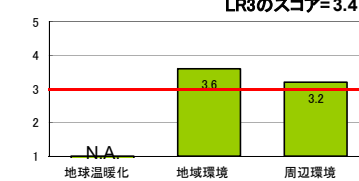
#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4



#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4




3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">8.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	重点項目	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	建物全体・共用部	
	重点項目										評価点
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

<b>3 対応性・更新性</b>				4.2	0.48			-	4.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高4.3m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.17	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			3.900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				4.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②	構造部材を痛めることなく修繕・更新可能。	-	-			-	
2 給排水管の更新性				5.0	0.23			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.15			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性				4.0	0.31			-	
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.31			-	
			建物機能を維持したまま更新・修繕可能。					-	
			消火ポンプ所は屋外計画					-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57			-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40			-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					-			-	-
2 自然エネルギー利用					-			-	-
3 設備システムの高効率化					-			-	-
4 効率的運用				3.0	1.00			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	-
集合住宅の評価					-			-	-
4.1 モニタリング					-			-	-
4.2 運用管理体制					-			-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30			-	3.4
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水					-			-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00			-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	-
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	再生砕石:基礎、地中梁、外構舗装等の路盤	3.0	0.21			-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			再生砕石:基礎、地中梁、外構舗装等の路盤	3.0	0.21			-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-			-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+塗装仕上、鉄骨ボルト接合	5.0	0.25			-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆使用	5.0	0.32			-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	-
1 消火剤					-			-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00			-	-
3 冷媒					-			-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30			-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①			-			-	-
2 地域環境への配慮				3.6	0.50			-	3.6
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25			-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.6	0.25			-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.33			-	-
2 汚水処理負荷抑制					-			-	-
3 交通負荷抑制		独自	乗用車、搬出入車両駐車場を確保。車両動線を考慮した計画。	4.0	0.33			-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			廃棄物処理委託	4.0	0.33			-	-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.50			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	-
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-
2 振動		独自			-			-	-
3 悪臭					-			-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-
2 砂塵の抑制					-			-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			専門家による検討体制のほか過半を満たしている。	5.0	0.70			-	-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-

**重点項目スコアシート**

樹翔栄通商 岩倉センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)翔栄通商 岩倉センター

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	居住エリアなし。
Q2 サービス性能	ゆとりのある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性能は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部には視線を遮るような樹木を配置しない等、防犯性に配慮した。 空地率57%、水平投影面積率10.8%を確保した。
LR1 エネルギー	省エネ計画対象外建物だが、高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。
LR3 敷地外環境	駐車場を確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし。